



根本 曠子  
《乾漆波文平鉢と小皿》  
奨励賞 高松市美術館賞

第42回 日本伝統  
漆芸展

JAPAN TRADITIONAL Urushi Works EXHIBITION 2025

2025年

3月8日 土 — 3月30日 日

会場  
高松市美術館1階  
【常設展示室1】

【観覧料】

一般 200円 (160円) 大学生 150円 (120円)  
65歳以上・高校生以下無料

※( )内は20名以上の団体料金 ※常設展示室2もご覧になれます。  
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳所持者は無料

【開館時間】

9:30～17:00 (入室は閉館30分前まで)

※ただし、特別展開催期間中の金・土(3月16日まで)は、9:30～19:00

【休館日】

月曜日

主催 = 高松市美術館 公益社団法人日本工芸会

後援 = 文化庁 香川県 香川県教育委員会

朝日新聞社 公益財団法人岡田茂吉美術文化財団 四国新聞社

NHK高松放送局 KSB瀬戸内海放送 OHK岡山放送

RNC西日本放送 RSK山陽放送 TSCテレビせとうち



北岡 省三  
《彫漆流動文鉢》  
文部科学大臣賞

# 第42回 日本伝統漆芸展

JAPAN TRADITIONAL Urushi Works EXHIBITION 2025

常設展示室 1

2025年

3月8日(土) - 3月30日(日)

日本を代表する工芸として、永い歴史をもつ漆芸。日本伝統漆芸展は、伝統の継承と現代生活への応用を目指し、日本伝統工芸展の漆芸部会展として開かれています。第42回となる本展は、東京・輪島・高松の3会場を巡回し、受賞作7点を含む入選作品全82点を展示いたします。

重鎮から新進まで漆工芸への飽くなき挑戦がうかがわれる本展覧会は、後継者育成に大きな貢献を果たしています。各地の伝統が育んだ地域性をも展望することできるまたとない機会です。本展が見せる磨き抜かれた技と美への探求と共に、常設展示室2で開催されている高松市美術館のコレクションによる「香川の人間国宝一技の伝承」も併せて鑑賞いただき、漆芸の魅力をお楽しみください。



大角 裕二《蒔絵乾漆箱「秋水」》  
東京都教育委員会賞



須藤 靖典《乾漆消粉透かし蒔絵盛器「鉢」》  
朝日新聞社賞



松本 法子《乾漆蒔絵合子「はなだ色らし」》  
MOA美術館賞



伴野 崇《乾漆盤「夜航」》  
奨励賞 石川県輪島漆芸美術館賞



若槻 万里奈《彫漆小箱「灯ともし頃」》  
日本伝統漆芸展新人賞



磯井 正美《蒔絵涼風箱》  
遺作 重要無形文化財「蒔絵」保持者



山下 義人《栗林公園 蒔絵可杯》  
重要無形文化財「蒔絵」保持者



大谷 早人《藍胎蒔絵茶器「神トンボ」》  
重要無形文化財「蒔絵」保持者

## 列品解説

会期中、展示室内において下記出品者による展示作品の解説を行います。当日直接会場にお越しください。※予約不要、要観覧券

1 3/8(土) 14:00~

北岡道代氏  
(日本工芸会正会員)

2 3/22(土) 14:00~

松原弘明氏  
(日本工芸会正会員)

## 同時開催/常設展示室 2

2024年度 コレクション展 4

## 香川の人間国宝一技の伝承

人間国宝とは重要無形文化財保持者のことで、1955(昭和30)年に第一次認定が発表されて以来70年が経過し、これまでに395名が認定されています。

香川県では、彫漆と蒔絵の漆芸技法で6名が指定されています。音丸耕堂は、豊富な色漆を駆使し大胆な意匠により独自の境地を切り拓き、1955(昭和30)年に彫漆保持者に認定されました。蒔絵では、5名が認定されています。磯井如真は、凸版写真印刷からヒントを得た点彫り蒔絵を創案、1956(昭和31)年に蒔絵保持者に認定されました。また、磯井正美は、均一の平面に斑文を生じさせる独自の技法

により、1985(昭和60)年に、さらに太田儔は、藍胎を素地とした布目彫り蒔絵により、1994(平成6)年に認定されました。近年では、磯井正美に師事した山下義人が幅広い彫りと色埋めを丹念に繰り返す技法により2013(平成25)年に、太田儔に師事した大谷早人は、藍胎と蒔絵を調和させた、品格のある作品を発表し、2020(令和2)年にそれぞれ認定されています。

本展では、香川県が輩出した6人の人間国宝の名品31点を通じて、讃岐漆芸の魅力を探ります。



### 【交通のご案内】

- ◎ JR：高松駅下車、徒歩約15分
- ◎ ことでん：瓦町駅または片原町駅下車、徒歩約10分
- ◎ 路線バス：紺屋町または丸亀町参番街下車、徒歩約3分
- ◎ 高速バス：県庁通り下車、徒歩約8分
- ◎ 空港リムジンバス：兵庫町下車、徒歩約4分
- ◎ 駐車場：美術館地下に公営駐車場(有料、乗用車144台収容)